

編集後記

本年度、全カリ運営センターでは、「なぜ、全カリを学ぶのか? ～人生における大学教育の意義を考える～」というテーマで公開シンポジウムを開催した。その内容は本号に筆録として掲載しているが、本学での全カリの位置付けや意義についての議論に止まらず、人の成長を「生涯にわたる過程」としてみた場合、大学で行われる教養（全カリ）教育が人の一生の中でどのような意義をもっているのか、さまざまな視点から考える機会を得ることができた。

また、本号では、現在、大学の課題となっている教育評価について特集を組むことにした。アメリカの大学における教育評価の事例、立教大学学生部が1972年から独自に行ってきた「大学環境調査」から読み取れるデータ、また「就職」にあたって学生たちが受ける社会的な評価の現状を紹介しつつ、教育目標の達成度や教育効果に関わる基準設定や測定方法の可能性、また全カリの課題や現状を踏まえた今後の展望について、議論が展開されている。特に、全カリの総合科目は、学部専門教育と語学教育とは異なり、教育の内容と目標、あるいは達成度と能力評価などについて、統一的な評価基準が存在しない。加えて、全カリは専門学部のような体系的なカリキュラムでないため、評価するのが大変困難である。そこで、全カリ総合科目の捉え方と評価は、大学自体の評価と改革に直結すべきであると考えられる。

最後に、ご多忙の中、本号に玉稿を下さった皆様に深くお礼申し上げます。

(杜 国慶)